

## 2021 年度第 9 回価格審査会の開催について

2021 年度第 9 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2021 年 12 月 14 日(火)	
場 所	6 階大会議室	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	鈴木 孝之	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長
	鈴木 由香	株式会社日本設計 コスト設計部長
	辻 保人	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長
	橋本 雅宏	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己
	建築調査部	部長：高橋 俊一、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：今井 豊
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2021 年度第 8 価格審査会議事録(案) 確認

2021 年度第 9 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
<p>1. 「建設物価」1月号、「Web 建設物価」1月号、「土木コスト情報」冬号、「建築コスト情報」冬号の価格動向</p> <p>・価格が上伸した資材（工事費）</p> <p>【Web 建設物価】</p> <p>月積み契約分鉄鋼販売価格 鋼矢板、鋼管ぐい・鋼管矢板、鋼管、鋼板・平鋼、切板(全国)、異形棒鋼(北海道、沖縄除く全都市)、H形鋼(全都市)、等辺山形鋼(全都市)、リップ溝形鋼(全都市)、鋼板(北海道除く全都市)、市中切板(全都市)、一般構造用炭素鋼鋼管（沖縄除く全都市）、コラム(札幌、福岡)、ステンレス鋼(全都市)、線材製品(中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄地区)、鋼製防護柵(全地区)、P C鋼材(全地区)、コルゲートパイプ(全地区)、ライナープレート(全地区)、レディーミクストコンクリート（千葉、銚子、市川、船橋、館山、木更津、松戸、成田、柏、浜松、新城、出雲、松山A・B、伊予A・B、東温、八代、日置、南さつま、那覇、宜野湾、沖縄、宮古島、金武）、アスファルト混合物（美濃加茂）、ストアス(那覇)、仮設・土木用木材(東北、関東地区)、コンクリート型枠用合板（全都市）、塩ビ管(全地区)、燃料油：灯油スタンド（北海道、中部の各都市）ほか</p> <p>【土木コスト情報】</p> <p>インターロッキングブロック工(北海道)、防護柵設置工(全都道府県)、法面工(全都道府県)、橋梁用伸縮継手装置設置工:補修(北海道、沖縄除く全都道府県)橋梁塗装工、表面被覆工、道路反射鏡設置工ほか</p>

<p>標準単価(全都道府県)</p> <p>【建築コスト情報】</p> <p>土工事(全都市)、コンクリート工事(新潟、名古屋)、型枠工事(東京、那覇)、軽量鉄骨下地工事、絶縁ケーブル工事、左官工事(那覇以外の全都市)、木製建具工事(東京)、内装工事(全都市)、排水工事(名古屋、福岡)ほか</p> <p>・ 価格が下落した資材 (工事費)</p> <p>【Web 建設物価】</p> <p>レディーミクストコンクリート (仙台)、燃料油:軽油・ローリー (全都市)、鉄スクラップ (全都市) ほか</p> <p>【土木コスト情報】 なし</p> <p>【建築コスト情報】 なし</p> <p>・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。</p>		
審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	伊予B地区の生コン価格が、上伸と下落の両方の変動が見られるのはなぜか。	伊予B地区では、大半の規格は協組の値上げが浸透して上伸したが、協組が価格体系の変更も行ったため、一部の規格は下落した。
質問 2	コンクリート工事 (打設手間) で、名古屋地区だけが上伸している理由は何か。	名古屋地区は、再開発などが進んでおり、個別交渉を重ねた結果、上伸となった。引き続き需要は旺盛なため、強含みで推移する公算である。
質問 3	生コンの浜松地区で、「各社はさらに値上げを進める構え」とあるが、木更津地区や松戸地区では、「積み残し分の浸透」や「未達分の浸透」とある。浜松地区は、木更津地区や松戸地区と同様に積み残し分の値上げなのか。	木更津地区や松戸地区は、協組が打ち出した値上げ額の一部が今月浸透し、未浸透分の値上げ交渉を続けているため、「積み残し分」や「未達分」と表現した。浜松地区は、協組が共同販売を実施しておらず、生コンメーカー各社が値上げを打ち出し浸透した。メーカーにより値上げ額も異なるため、「各社はさらに値上げを進める構え」という表現とした。
質問 4	軽量鉄骨下地工事や金属工事 (軽量鉄骨下地) の説明で、「材料費の上昇を背景とする・・・」とあるが、新聞記事などでは、加工する技能者不足の影響で上伸しているとあった。そういった背景はないのか。	「鋼材価格や材料価格の上昇を背景に・・・」と説明したが、人手不足は各業界が抱えており、そういった要因も含めて値上げを打ち出している。今回は材料費の上昇が追い風となって値上げが浸透した。上昇要因の中には人件費も含まれている。

質問 5	ガードレールやガードパイプ価格の上昇は、品目数も多く変動率も大きい。これは毎月見直すものではなく、数カ月に一回見直した結果が今月上伸となったのか。	ガードレールやガードパイプは、B資材に該当し年2回調査が基本だが、それ以外の月も市況動向を監視し必要に応じて調査を行うこととしている。メーカー各社は鋼材価格の上昇を受け値上げを打ち出しており、価格変動が予想されるため毎月調査に切り替え調査を実施し、今月、値上げが浸透し上伸となった。
質問 6	燃料油は、大半の油種で元売りの仕切り価格引き下げを背景に下落しているなか、灯油のスタンド渡しは「元売りの仕切り価格上昇分を転嫁し上伸した」ということだが、スタンド渡しとスタンド渡し以外で価格変動要因が異なるのか。	原油価格は今月下旬下落したが、一部都市の灯油スタンド渡しでは、販売店が冬季の暖房需要増を背景に、これまでの仕切り価格上昇分を転嫁すべく値上げを実施し上伸した。暖房需要以外は低調なため、灯油スタンド渡し以外の燃料油は、元売りの仕切り価格の引き下げが反映され下落した。
質問 7	土木工事標準単価の「橋梁塗装工」以下の工種についての上伸理由が、「軽油の値上がりを受け」とある。土木コスト情報は3カ月毎に発刊されているが、3カ月間で燃料はかなり上伸しているにも関わらず、上伸していない工種（区画線等）があるのはなぜか。	土木工事標準単価は、当会で調査した施工歩掛に公表されている労務単価と材料価格及び機械経費を計上して算出している。工種によって使用する機械等が異なり、燃料油価格を使用して算出する工種は燃料油の上昇分が反映されて上伸した。人力作業などで燃料油を使用しない工種は横ばいとなっている。区画線工は、単価構成に燃料油価格を含まないため横ばいとなった。
質問 8	価格モニター調査結果で、東京地区のH形鋼の上限値が急激に上昇しているが、前月と同じ調査先なのか。	特定の1社が大きく変動している。8月号105,000円、10月号108,000円、12月号で133,000円と大幅に上昇した。
質問 9	土木コスト情報の市場単価等の上伸理由として「人件費の上昇」とある。人件費というのは、年1回公表される労務単価があるが、土木コスト情報は、どのような形でどのタイミングで調べているのか。また、人件費のウエイトはどれくらいなのか。標準単価と市場単価の値動きが違うのはなぜか。	市場単価は、3カ月毎に調査した元下間の取引価格であり、歩掛などから算出した価格ではない。そのため、機労材の内訳（人件費のウエイト）は不明である。ただ、価格動向の背景として、人件費や材料単価がどのように影響しているかヒアリングしている。土木工事標準単価は、歩掛などを積み上げて算出しているため、市場単価と単価算出方法などで違いがある。

質問 10	東京地区の生コン市況文では、11月の出荷量は前年同月比で33.1%も大幅に伸びている。一方、東京地区のセメント市況文では、「10月の国内の国内販売量は減少」、「7カ月連続で下回った」とある。需要が低迷しているセメントと需要が好調な生コンとの比較で、状況に食い違いが見られるのはなぜか。	生コンは東京17区、セメントは全国の出荷量を示している。東京17区の生コンは11月頃から工事が動き出し増加傾向にあるが、全国的には低迷が続いている。ちなみに、全国の上期出荷量で言うと、セメントが前月同期比-1.9%、生コンが-2.1%と同じような傾向となっている。
審議結果	「建設物価」1月号、「Web 建設物価」1月号 「土木コスト情報」冬号、「建築コスト情報」冬号の価格動向に問題はなかった。	

以上